

直前会長はじめ参加された皆さん、大変お疲れさまでした。2022-23 年度会長 蕭忠郁（フェーマー）さんとの LINE のやりとりで様子を教えていただきました。

さて、若いメンバーの方に台湾草屯 RC との交流の歴史を少しお話しします。

昭和 57 年、第 22 代 高木淳二会長の時にボーイスカウト、ガールスカウトの台湾草屯への派遣が始まり当時の国際奉仕委員長は、田中宗太郎さん(田中茂生さんの父)、青少年奉仕委員長は平林米司さんにお骨折りいただきました。

第 6 回までは全て派遣ばかりでしたが 7 年目の平成元年、平林米司会長の時に草屯童子軍の来日交流が初回を迎え、それ以来犬山 RC が 30 周年、40 周年、サーズ、インフルエンザ流行のため 7 回中止になった以外、犬山・扶桑ボーイ、ガールスカウトが草屯へ出かけた交流が 25 回、犬山へ来ていただいたのが 9 回となっています。最近では、交互に交流を続けていました。

またクラブ同志、草屯と犬山との姉妹提携は、旭光中学校、犬山・扶桑のボーイ、ガールスカウトとの交流から 7 年遡り、犬山 RC 15 代目 小川鎌二郎会長のもと、その時の国際奉仕委員長は、林外科の林春男さん、青少年奉仕委員長は、その当時台湾通の中村研一さんでした。草屯の大成宮殿で犬山 RC からは 18 人参加し調印が行われました。

皆さん、先輩諸兄のご尽力、礎があってからこそだと思えます。



2023～2024 年度のための地区研修・協議会報告① (2023-24 年度幹事 小川 誠君)

◎第 2 分科会

2023-24 年度親睦活動委員長 宇佐美 芳樹君

テーマ：クラブが中心！

～クラブ奉仕の重要性について～



失礼します。第 2 分科会に出席させて頂きましたのでその報告をさせて頂きたいと思えます。

「クラブが中心！クラブ奉仕の重要性について」というテーマのお話でした。主な内容として 2 点ありまして、1 つは新入会員の退会防止について考えるということ、もう 1 つはクラブ奉仕について改めて考えるというものでした。

まず新入会員の退会防止についてですが、どこのクラブに関しても新入会員を入れるということに関しては非常に力を入れますがその後退会してしまうというケースが多岐にわたります。それは何故かということ、新入会員を入れたのは良いのですが、その後どこかの委員会に配属させてそのまま放置させてしまうと。その結果思っていたのと違うなということになってしまったり辞めてしまう。そういう会員さんが多い。というお話

でした。それを防ぐために、単に委員会に入れるのではなくキッチンとした責任のあるロータリーの仕事について頂いた上で、その仕事を通して既存会員さんと親睦を深めてもらう。そこまで考えなくてはいけないのではないかとのお話でした。

2 つ目はクラブ奉仕について今一度考えるという点なんですが、これ僕もああそうなんだと勉強になりました。皆様クラブ奉仕を具体的にどういうことを考えたことはありますか。クラブ奉仕というのはクラブ会員がクラブに奉仕することなのか。クラブがクラブ会員に奉仕することなのか。どちらですかということです。ロータリーの定款を見るとクラブの会員がクラブに奉仕するんだと。そういう風に読めるんですが、マイロータリーを読むとクラブがクラブ会員に奉仕するんだと書いてあるように読める。結論から言うと、両方ともである。クラブはクラブ会員に奉仕する。クラブ会員がクラブに奉仕するんだということです。具体的にはクラブ会員というのは積極的にクラブに参加した上で会員と親睦を図り成長していく義務がある。クラブというのはクラブ会員がそういった成長が出来るように、場を創る義務がある。こういう話でした。具体的な一番の肝となるのが例会である。どうしても例会というはお食事会になりがちなんだけども、ロータリーにおいて一番の肝は例会なので、例会においてクラブ会員がちゃんと成長してその上でロータリーの目標である各クラブ会員が自分の所属している職業のリーダーになれるような人材として育てていく。そういった場であることが重要であるので、その様な例会をやっていくようにということでした。

以上が第 2 分科会としての報告となります。



◎第 3 分科会

2023-24 年度公共イメージ向上委員長 近藤 俊也君

テーマ：ロータリーの公共イメージ向上とは



はじめに次期地区公共イメージ向上委員会 堀尾委員長よりお話がありました。

現在 RI 国際ロータリーでは地区に対して、会員増強、ロータリー財団、研修、財務、そして公共イメージ向上委員会の 5 つの設置が義務付けられており、その一つである公共イメージ向上委員会は重要な委員会であると認識しております。

「ロータリーの公共イメージ向上」とは、「私たち自身がロータリーをどう考える」だけでなく、「外部の人びとがロータリーについてどう感じているのか」を含みます。

「ロータリー」という名を知ってもらうことはもちろん大切ですが、それだけでは十分ではありません。ロータリーの活動とインパクトを理解してもらってはじめて、参加への関心が生まれるからです。そのためには、ロータリーについてどう伝えるかがカギとなり

ます。

そして、クラブの公共イメージ向上委員会の役割は、ロータリーのストーリーを広く人びとに伝える。その目的は、ロータリーがどのような団体であるか、地域や世界の問題解決のためにどのように協力しているか、ロータリーの活動がどのように地域社会に変化をもたらしているかについて、人びとの認識を高めることです。とお話がありました。

続いて古市次期副委員長より「ロータリー公共イメージの必要性」のお話があり、2018年6月にRIは持続可能な良い変化を生むために行動する世界を作っていくロータリーのビジョンを出しました。このビジョンを実現するために4つの行動計画があります。

- ①より大きなインパクトをもたらす
- ②参加者の基盤をひろげる
- ③参加者の積極的なかわりを促す
- ④適応力を高める

この①と②の間に位置するのが公共イメージ向上推進活動です。ロータリーそしてロータリアンのイメージアップはロータリーのビジョンの実現に不可欠なことです。とお話がありました。

また、地区公共イメージ向上委員会から各クラブへのお願いがありました。

- ①ポリオ根絶キャンペーンを計画し、内外へ発信をお願いします。
- ②クラブ事業について、地区ホームページへ寄稿のご協力をお願いします。それと同時にFBもありますので、「いいね」やフォローをお願いします。
- ③マスメディアへの対応をお願いします。
- ④マイロータリーの登録、利用の推進をお願いします

とのことでした。

続いて児玉次期副委員長より、「マイロータリーの登録とラーニングセンターの活用」についてのお話では、マイロータリーへの登録のお願いとその活用方法のお話がありました。

地区では登録目標を60%としております。まだ登録されていない方は是非登録をお願いしますとのことでした。以前当クラブでも登録の案内をしたと思いますが、あらためてどこかのタイミングで皆さんにご案内できたらと考えております。

休憩をはさんで、次に稲熊次期副委員長より「公共イメージのためのSNS活用方法」のお話がありました。よく知られているSNSには、Facebook、Instagram、Twitter、YouTube、TikTok、LINEがありますが、ロータリーの存在を知ってもらいために気楽に発信してくださいとのこと。さらにハッシュタグなどをつけて紐づけできるといいと思いますとのことでした。

SNSをやってみる方はぜひクラブ事業などの発信もしていただければと思います。

最後に、次期ロータリーの友地区代表委員 池森様より「ロータリーの友に関して」のお話があり、「ロータリーの友」は

- ①国際ロータリーからの公式な情報伝達の場合
- ②ロータリー活動の情報提供と情報発信の場合
- ③ロータリアンとしての趣味等の発露の場合
- ④ロータリー活動関係の出版物販売

などが掲載されています。

「ロータリーの友」も進化していますので、ぜひ読んでほしいとおっしゃっていました。

ここについては、来年の委員会でよかった記事や感想を発信していきたいと考えています。

以上、地区研修・協議会の報告とさせていただきます。

* * * * *

◎第6分科会

2023-24年度ロータリー財団・国際奉仕副委員長

安達 寛益君（報告：ロータリー財団）

テーマ：財団をクラブ活性化に



第6分科会の報告をさせていただきます。当日は安田一生さんと一緒に出席をさせていただきました。

初めにリーダー挨拶として、高山景一ロータリー財団委員長より挨拶があり、その後の各構成委員会での話がありました。ロータリー財団委員会は昨年同様5つの委員会に分け活動がなされます。

- ・ポリオプラス/職業研修委員会
 - ・グローバル奨学生・平和フェロシップ委員会
 - ・補助金委員会
 - ・資金推進委員会
 - ・資金管理委員会
- でございます。

まずは、ポリオプラス/職業研修委員会です。

ポリオ根絶のための活動のポリオプラスプログラムとグローバル補助金を利用した職業研修チーム VTT 委員会です。VTT 事業では、近年コロナで止まっていたのですが、2023-24年ではフィリピンにおいて小児の心臓外科手術を重点分野として、事業を行っていくとの事です。

また近年の世界のポリオウイルス症例数は年々減っております。しかしながら、昨年 NY、ロンドンの下水道よりウイルスが発見された等ありましたものの、2022年30人まで減り、根絶まであと少しとなっておりますので、引き続きのご支援よろしくお願い致します。

続いて、グローバル奨学生・平和フェロシップ委員会です。

グローバル奨学生はロータリー重点分野に関連する課程を海外の大学院修士課程で学ぶ方を対象に返済不要の奨学金給付プログラムとして、本年度2名の実績があったとの事でした。ロータリー平和フェロシップは世界の指定の大学と提携運営し、平和推進者の世界的ネットワークを築いているものですが、こちらは、まだ具体的にはこれからとの事でした。

続いて、補助金委員会です。

補助金には、地区補助金とグローバル補助金がございます。大筋は、本年度と変わりませんが、地区補助金について変更がありました。本年度は補助可能額が3年前の年次寄付の25%で、当該クラブの拠出金の同額必要との事でしたが、次年度より補助可能額が3年前の年次寄付の25%であります。クラブ拠出金は必要がなくなりました。また、申請ルールでは、過度な一か所への支援の防止により、継続事業への使用は、

